

# クロモグリク酸Na吸入液 1%「サワイ」

## ラット実験的喘息モデルを用いた薬理作用についての比較試験

試験製剤	クロモグリク酸Na吸入液 1%「サワイ」
標準製剤	インタール吸入液 1%

### 〈方法〉

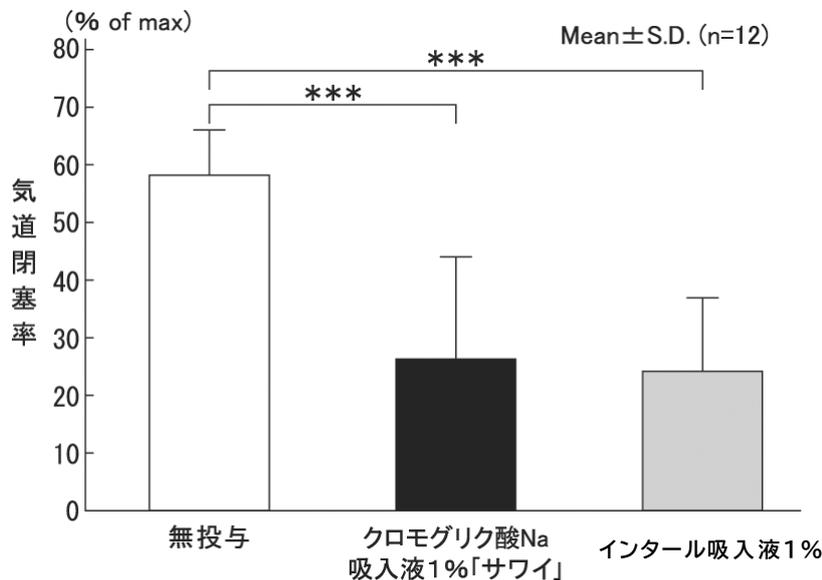
抗体を静脈内投与して受動的に感作したラットを用い、抗原を静脈内投与して惹起する前後の気道抵抗の変化を測定した。製剤は加圧式ネブライザーにてミストを発生させ、強制的に10分間吸入させた。気道を完全に閉塞した際のチャート高を100%として、惹起後10分間のチャート高の最高値を百分率で表し、平均値を算出して比較した。

モデル	投与量
ラット実験的喘息モデル(Wistar系、雄性)	1%濃度、10分間吸入

### 〈結果〉

クロモグリク酸Na吸入液 1%「サワイ」及びインタール吸入液 1%投与群は無投与群に対して気道抵抗の有意な抑制を示し、両製剤投与群には有意な差を認めなかった。

以上の結果により、ラット実験的喘息モデルにおいて両製剤は同等の薬理効果を有する製剤であると判断した。



\*\*\* : p < 0.001 (Student-t検定またはAspin-Welch-t検定)

## モルモット実験的喘息モデルを用いた薬理作用についての比較試験

試験製剤	クロモグリク酸Na吸入液1%「サワイ」
標準製剤	インタール吸入液1%

### <方法>

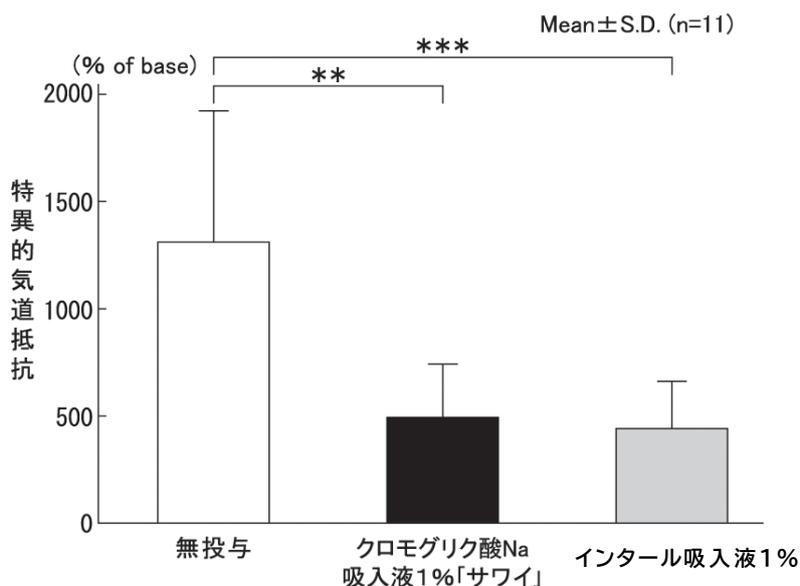
抗原をミスト化して吸入感作したモルモットを用い、抗原を吸入させ惹起する前後の特異的気道抵抗を測定した。製剤は加圧式ネブライザーで噴霧し、自発的に10分間吸入させた。各群の結果は、抗原惹起前に対する、惹起10分後の特異的気道抵抗を百分率で表し、平均値を算出して比較した。

モデル	投与量
モルモット実験的喘息モデル(Hartley系、雄性)	1%濃度、10分間吸入

### <結果>

クロモグリク酸Na吸入液1%「サワイ」及びインタール吸入液1%投与群は無投与群に対して特異的気道抵抗上昇の有意な抑制を示し、両製剤投与群には有意な差を認めなかった。

以上の結果により、モルモット実験的喘息モデルにおいて両製剤は同等の薬理効果を有する製剤であると判断した。



\*\* : p<0.01、\*\*\* : p<0.001 (Student-t検定またはAspin-Welch-t検定)